

病虫害発生予察注意報(第5号)

平成31年2月28日
神奈川県農業技術センター

病虫害名：アザミウマ類

作物名：イチゴ

1 発生地域：県内全域（イチゴ栽培地域）

2 発生量：多

3 注意報発令の根拠

- (1) 平成31年2月のイチゴ巡回調査におけるアザミウマ類寄生花発生ほ場率は57.1%で平年(8.2%)に比べて高く、過去10年で最も高い(表1)。
- (2) 平成31年2月のイチゴ巡回調査ではアザミウマ類の寄生花率は2.1%で平年より高く、平成30年12月から増加しており(図1)、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ハナアザミウマ、ネギアザミウマなどの寄生を確認した。
- (3) 2月21日発表の1ヶ月予報(気象庁発表)では、気温は高い傾向であり、今後もアザミウマ類の増殖に好適な条件が続くと考えられる。
- (4) イチゴのアザミウマ類は、例年春先の気温が上昇する時期にかけて増加する傾向が見られるため、今後の増加が予想される。

表1 イチゴ巡回調査におけるアザミウマ類寄生花発生ほ場率(%)

	11月	12月	1月	2月	3月
H26年度	14.3	0.0	0.0	0.0	50.0
H27年度	7.1	14.3	14.3	21.4	21.4
H28年度	7.1	7.1	7.1	0.0	28.6
H29年度	0.0	7.1	0.0	14.3	28.6
平年	5.9	5.2	4.5	8.2	24.4
H30年度	0.0	7.1	21.4	57.1	?

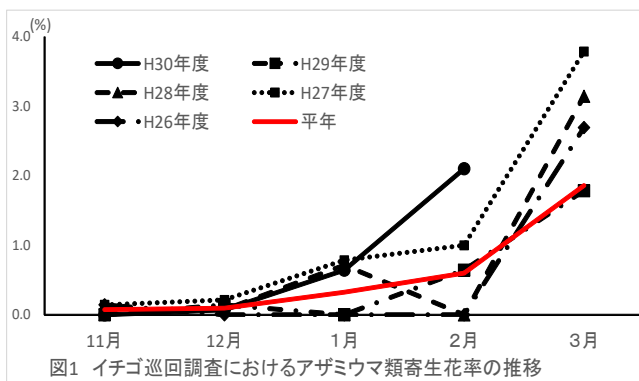


図2 イチゴ花に寄生するアザミウマ類

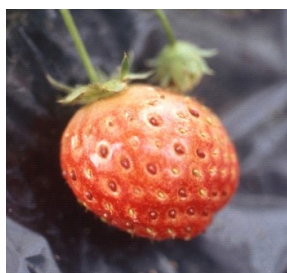


図3 アザミウマ類による果実被害



図4 アザミウマ類による花の被害

4 防除対策

- (1) ほ場をこまめに観察し、早期発見に努め、アザミウマ類が増加する前に早期防除する。
粘着トラップ（青色）を施設内に設置すると、アザミウマ類の発消長を確認できる。
- (2) 多発時には薬剤がかからない卵や蛹が混在するため、一度の薬剤散布では防除が困難である。
- (3) 同一系統薬剤の連用は避け、作用性の異なる薬剤でローテーション防除を行う。
- (4) ハウス内及び周囲の雑草や観賞用の花き類はアザミウマ類の生息、増殖場所となるため、ハウス内及び周囲から除去する。
- (5) ハウス開口部（天窓、側窓、出入口）には防虫ネットを設置し、アザミウマ類の施設内への侵入を抑制する。防虫ネットは白色 0.4mm 目合以下または赤色 0.6mm 目合以下のものを使用する。

5 防除薬剤

イチゴのアザミウマ類及びミカンキイロアザミウマに対する防除薬剤の例を表 2 に示した。なお、農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守する。

表2 防除薬剤の例

薬剤名	作用機構 分類(IRAC コード)	天敵に対する影響					
		ミヤコカブリダニ			チリカブリダニ		
		卵	成	残	卵	成	残
アーデント水和剤	3A	—	—	—	—	—	—
モスピラン顆粒水溶剤	4A	○	◎	—	○	◎	—
スピノエース顆粒水和剤	5	△	△	—	△	△	—
ディアナSC	5	—	—	—	—	—	—
コテツフロアブル	13	—	—	7	—	—	—
カウンター乳剤	15	—	—	—	—	—	—
カスケード乳剤	15	△	◎	—	◎	◎	0
マッチ乳剤	15	◎	◎	0	◎	◎	0
モベントフロアブル	23	—	—	—	—	—	—
ベネビア0D	28	◎	◎	0	◎	◎	0
ファインセーブフロアブル	—	◎	◎	0	◎	◎	0

注1) 天敵に対する影響は日本生物防除協議会資料等を参考とした。

・卵:卵に対する影響、成:成虫に対する影響、残:その農薬が天敵に対して影響のなくなるまでの期間で単位は日数。天敵に対する影響は、◎:死亡率0~25%、○:25~50%、△:50~75%、×:75~100%、-:試験データなし

・表中の影響の程度及び残効期間は目安であり、気象条件により変化する。

注2) 展着剤の加用や他剤との混用で薬害を生じるおそれがあるので、ラベルの注意事項等を確認のうえ使用する。

神奈川県農業技術センター
病害虫防除部

〒259-1204 平塚市上吉沢1617

TEL 0463-58-0333

FAX 0463-59-7411

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>